



療育支援プロジェクト

障がい児のストレングスを 活かした療育活動



強みを起点に「できる」を広げる支援設計



Presenter

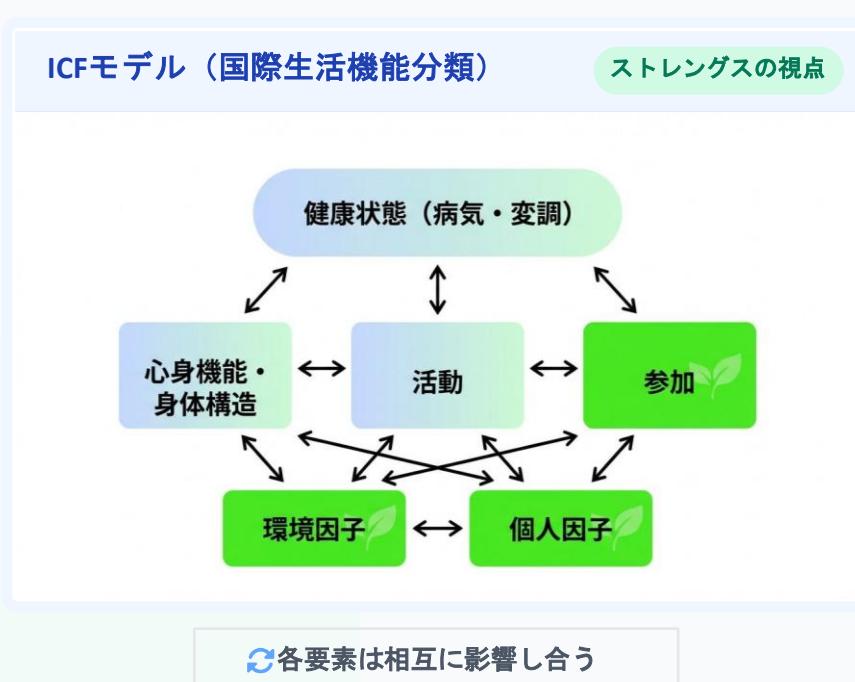
サンクスシェア 主任相談支援専門員 田中 聰

Date

2026年1月28日



ストレングス アプローチとは



強み・興味・成功体験が出発点

苦手の克服ではなく、子どもの「好きなこと」「できること」を起点に支援を構築します。



ICFの視点で「参加」を最大化

機能・活動だけでなく、環境因子を含めた視点で社会的な「参加」を目指します。



自己効力感・選択の尊重・協働

子ども自身の「やりたい」を尊重し、保護者・支援者とチームで協働します。



環境調整と合理的配慮

本人の努力のみに頼らず、強みが活きるように環境側を調整します。



長期的なウェルビーイング

目先の技能獲得だけでなく、将来にわたる幸福と社会参加の促進を目的とします。

従来アプローチとの違い

☑ 課題ベース（従来）

注目点

「何ができないか」に注目



手法

訓練中心・一律の基準



決定権

専門家主導で目標設定



行動対応

問題行動の抑制を優先



成果

短期の技能獲得

↗️ ストレンジングベース

注目点

「何ができる／好きか」に注目



手法

環境調整・多元的評価



決定権

本人・家族と協働で合意



行動対応

行動の機能理解と置き換え



成果

参加・自立・満足度 (QOL)



療育活動設計の基本原則

効果的な支援のために考慮すべき7つのチェックポイント



安全・予測可能性

- ▶ 見通しの提示、ルールの明確化、安心できる環境



選択肢と自律

- ▶ 自分で選べる活動、役割の付与、自己決定の機会



段階化（スマールステップ）

- ▶ 達成可能な目標設定、適切な足場かけ



視覚支援の活用

- ▶ 絵カード、写真、タイマー、実物による情報提示



インクルーシブな設計

- ▶ UDL（学びのユニバーサルデザイン）、感覚過敏への配慮



楽しさと意味づけ

- ▶ 内発的動機づけ、興味関心との結合



家庭・学校との一貫性

- ▶ 生活場面への般化（一般化）、連携した目標設定



Check!

活動計画時にこれらを網羅しているか確認

ストレングスの見つけ方・アセスメント

子どもの「できる」と「好き」を発見するための7つのアプローチ



多元的情報収集

- ▶ 本人・保護者・学校・過去の記録など、多角的な視点から情報を集める



学習スタイルの把握

- ▶ 視覚優位・聴覚優位・身体感覚など、本人が情報を処理しやすい方法を知る



系統的観察

- ▶ どの活動なら関心が持続するか、どんな提示形式が得意かをじっくり観察



感覚プロフィールと環境

- ▶ 光・音・触覚などの感覚特性や、落ち着ける環境条件（座席・動線）を確認



成功体験の分析

- ▶ 過去にうまくいった事例を分析し、何が成功の強化要因だったのかを探る



記録・共有（可視化）

- ▶ 写真や動画で記録し、支援チーム全体で「できた」瞬間を共有・再評価



興味関心リスト・嗜好評価

- ▶ 好きな人・物・活動・キャラクターをリストアップし、好みを把握する



Focus!

「できないこと」ではなく
「できること」のリストを作る

活動計画作成の具体的留意点

実践的かつ効果的な計画を立てるための7つの要点



目標設定(SMART+GAS)

- ▶ 具体的で測定可能な目標、達成度の可視化 (GASの活用) ※GAS (Google Apps Script)



最適負荷とリスク管理

- ▶ 挑戦可能な難易度（ゾーン）設定、体調・安全への配慮



役割分担と支援手順

- ▶ 「誰が・いつ・どう」支援するかを明確に定義する



モニタリングとPDCA

- ▶ 定期的な評価周期（例：4～8週）と計画の見直し



家庭連携と般化

- ▶ 宿題化せず、生活場面でスキルを使える機会を設計



ICTの活用

- ▶ タイマー、スケジュール、動画記録アプリの有効活用



同意・尊厳の保護

- ▶ 本人の同意（アセント）、プライバシー配慮、拒否権の尊重



Point

計画は固定的なものではなく、子どもの反応に合わせて柔軟に更新を！

5領域を活かした支援の視点

健康 · 生活



- 写真手順で身支度：
視覚的見通しで不安軽減、
自立促進
 - 見通しボード：
1日の流れを可視化し、情緒安定

運動・感覺



- **感覚調整コーナー：**
クールダウンや刺激調整の場所確保
 - **運動遊びで覚醒調整：**
身体を満たし、学習への集中向上

認知・行動



- タスク分析：
課題を細分化し達成感を
積み重ねる
 - トークン・強化子：
好ましい行動直後に視覚的評価

言語・コミュニケーション



- **視覚支援・代替手段 :**
PECS等を用い、自発的な要求を促す
 - **語彙の機能的学习 :**
好きな遊びの中で生きた言葉を学ぶ

人間関係・社会性



- 小集団での役割付与：
「配る係」など強みを活かし貢献体験
 - 協働ゲームでの成功：
ルール遊びで勝ち負けや順番を経験

実践における注意事項



安心と安全

子供の尊厳を守る
最優先事項



尊厳・選択の尊重

無理強いは避け、拒否する権利を保障する。本人の意思決定を最優先に。



過敏/過負荷の予防

感覚刺激を調整し、適切な休息（クールダウン）を計画に組み込む。



二次障害の予防

失敗体験の繰り返しを防ぎ、自己肯定感を育てることで精神的安定を図る。



行動の機能理解

問題行動には理由がある。「求めていること」を適切な代替手段で満たす支援を。



文化・家族文脈の尊重

各家庭の価値観や言語的背景を尊重し、一方的な支援観を押し付けない。



客観的な記録

印象ではなく、事実・頻度・所要時間などで記録し、変化を客観視する。



チーム内振り返り

短時間でも高頻度でレビューを行い、支援のズレを早期に修正する。

成功のポイントと具体例

強みを活かした介入による行動変容と成果の実績



CASE 01

視覚優位を活かす

絵スケジュールとチェックリストを活用し、声かけなしでの自立移行を支援

Results

切り替え時間

-40%



声かけ回数

-50%



CASE 02

音楽の強みを活用

活動転換時にリズム合図を使用し、手順を歌詞に乗せて記憶を促進

Results

抵抗行動

-60%



活動参加率

+30%



CASE 03

運動好き×役割付与

「配達係」「準備係」など身体を使う役割を与え、責任感と達成感を醸成

Results

逸脱行動

-35%



社会的やり取り

+25%



Common Factors

共通する成功の要因

✓ 小さな成功の連続

✓ 環境調整

✓ 家-園の一貫性

まとめと次のステップ

強み起点のアプローチで、子どもの「参加」と「可能性」を広げる



強み起点



環境調整



チーム協働

参加の拡大

Well-being



強みリスト化

アセスメント情報を基に、子どもの得意・好きを書き出すワークを実施



スモール試行

1つの活動を選定し、ストレングスを活用した支援をまずは試す



効果測定

時間・頻度・本人の満足度など、客観的な指標で変化を確認



PDCA・共有

4~8週間で振り返り。うまくいった要因をチームで共有し一般化へ